

平成29年度 東村山市立 富士見小学校 学校評価報告書

学校教育目標 「すすんでやる子」 ○かかんがえる子 ○おもしろい子 ○がんばる子							
目指す学校像(ビジョン) 【目指す学校像】 「ファイト&フレンドリー 自分を高めて みんなで伸びよう」 ①児童の自己教育力を育む学校 ②児童の自己実現を支援できる学校 ③開かれた信頼される学校 【目指す児童・生徒像】 自主性と積極性、強調性と思いやりの心を持ち、自ら向上していこうと努める児童 【目指す教師像】 ○プロの教師(職員)として自覚をもつ ○組織人としての組織目標達成のために協調・協働して汗をかく ○教育公務員として法を遵守し服務は厳正に従う(マナー・モラル・礼儀)							
前年度までの学校経営上の成果と課題 ①オリンピック・パラリンピック教育の一環としてゲストティーチャーによる体験活動ができた。②東京ベーシックドリルを活用し算数の基礎・基本を定着させることができた。③特別支援教室が開設され 個に応じた指導をていねいに行うことができた。◆運動に対する興味・関心は高められたが、体力向上があまり図れなかった。◆家庭学習が定着できていない児童が一部いる。◆読書40冊の達成率が8割に到達しなかった。							
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
学力向上	・全学級で週2回の朝学習に「ぐんぐんタイム」を設定し、算数科と国語科におけるドリル学習と検定に取り組む。	2	2	算数の学力を伸ばすために読解力の必要性から国語の朝学習も取り入れた。プリント量が2倍になり、進みが遅い子やつまづきへの個別指導が十分に行えないことも多かった。基本的内容をじっくり行う機会とするための教材の精選と整理が今後の課題である。	4	3	ぐんぐんタイムで、個に応じた指導を実施した。基礎的・基本的学力の育成を図った(努力目標2から4)。定着が図られつつある(成果目標2から4)。11クラス中6クラスで80%以上の成果があがっている。今後も問題の精選と丁寧な個別指導を続ける必要がある。
	・授業でのねらいを明確にし、児童が何ができるようになったかを自己評価できるようにする。	3	3	授業ではねらいを明確にして取り組ませているが、児童が自己評価し、主体的に家庭学習を習慣化するには課題がある。保護者との連携・協力が大切である。保護者会等で伝えるときも、自主学習ノートや日記なども活用して主体性を育てる取り組みを続けていく。	3	4	算数診断テストの結果から定着率は低学年・中学年が高くなっている。成果目標(保護者アンケート3から4)が向上している。家庭の協力がすすんだといえる。課題は高学年の基礎学力の定着である。児童への自覚を促す指導と保護者の協力を得る工夫をしていく。
健全育成	・年3回の生活実態調査と学校生活アンケート、いじめ調査(記名式2回・無記名式1回)をもとに、個々の実態や学級の傾向を把握し、指導改善を図る。	4	2	調査・対応を行っているが、傷つける言葉や暴力があると答えている児童が13%増えた。言語環境を整える朝礼講話や普段の呼びかけ等さらに行っていく。保護者アンケートは90%を超える肯定的評価であった。	4	2	傷つける言葉などがあったとした児童が3割いた。低学年のクラスに多い傾向がある。いじめの件数としてあがっていないので、認識せずに使っているといえる。事が起きる前の普段からの呼びかけによる指導と心を安定させるための学級経営の工夫を行っていく。
	・富士見っ子のきまりや「富士見しぐさ」を中心に、集団生活におけるルールや役割について、共通理解のもと指導を行い、自己評価する。	3	3	富士見小の児童としての誇りをもたせたい。普段の自己肯定感と所属意識を高める働きかけの中で「富士見しぐさ」を意識させる。計画委員会などを組織的に活躍させ、児童から自主的に「富士見しぐさ」ができるような取り組みを行う。	3	2	教員の入れ替わりがあっても、富士見の伝統を引き継ぐ必要がある。普段から富士見っ子を意識させた生活指導と特別の教科「道徳」での心の育成を充実させ、計画委員会活動で「富士見しぐさ」の呼びかけを行うなど、自主性を引き出す取り組みを行う。
健康・体力づくり	・富士見わくわくタイムを年間14回設定し、児童が運動することが楽しい、もっとやりたいという気持ちにさせる。 ・しゃきピカカードを用いて、生活習慣を意識させたり、振り返らせる。	4	2	教員の評価が46%から91%へ伸びた。様々な体の動きを体験し、体力の向上が図られている。児童アンケート「休み時間外に出て遊んでいる。」が、成果目標であり、7月上旬の高温が続いたとき実施したアンケート結果(76%)であった。	4	3	わくわくタイムにより運動することに興味をもち楽しんで取り組んでいる。ただ、成果項目の児童アンケート「休み時間外に出て遊んでいる」は77%で、前回より少ししか伸びていない。クラス全員遊びなどをさらに取り入れ、体力の向上を図る必要がある。
	・東村山市アクティブプランto2020を活用し、体育の授業を通してどの児童も運動することに興味・関心をもち、体力の向上を図れるようにする。	3	4	児童は健康や安全に気をつけて生活している。年度の始めは大きなケガが多かった。安全への声かけと昇降口のドアの表示など生活環境を整えることで、校内の事故やケガが激減した。今後も児童の活動を予測して声かけを行っていく。	4	4	「保健指導や食育を通して児童の健康への興味や関心を高めている」という教員側の努力目標が向上し、児童の意識も高まっている。教員全員で行う雪かきなどで児童をケガから守る意識も高まった。校内の事故やケガが激減し、安全に生活できている。
保護者・地域との連携	・家庭学習を全ての児童におこなわせるために、どのクラスでも工夫させ、保護者アンケートで達成率を調査する。	4	4	各学年毎週出している学年日より日々の活動の様子を伝える学級日より連絡帳で、保護者への連絡や連携・協力が図られている。そのことが保護者アンケートの多くの項目で90%を超える肯定的評価につながっている。今後も継続して行っていく。	4	4	保護者や地域への情報の発信は教員側も保護者側もとても肯定的な評価であった。学級日より等を通して保護者への丁寧な対応を行い、信頼関係が高まっている。今後は、学校と保護者で指導観の共有を図り、子どもの成長を促す活動を展開していく。
	・土曜子ども講座や地域行事について保護者や児童に周知し、児童を積極的に参加させる。	3	1	児童の参加経験の回答が44%であった。全校朝会や昼の放送での呼びかけを含め、教員の意識的な声かけを今後も行っていく。	3	3	成果目標が大きく伸びた(1から3)。朝礼や昼の放送で声かけを行ってきた。教員の働きかけで向上する面も大きいので、「地域の子は地域で育てる」意義を今後も意識していく必要がある。
特色ある学校づくり	・全校及び各学年で保護者や地域人材等のゲストティーチャーを計画的に活用し、様々な生き方にふれさせる。	3	3	オリンピック・パラリンピック教育の実践によるゲストティーチャーや社会科、生活科、総合的な学習などで地域人材の活用を行っている。また、活動参加を保護者にも促している。保護者アンケートが15%、児童アンケートが10%伸びている。今後も継続していく。	4	3	オリンピック・パラリンピック教育を実践し、充実を図るために、多くのゲストティーチャーを招いた。日本文化・オリパラ精神・国際理解・外国語活動の視点から教育活動を行った。社会で生きる力につなげられるよう今後も積極的に地域の教育力を活用していく。
	・学校図書を積極的に利用させ、読書カードを活用し、年間通して40冊以上を目標に本を読ませる。	3	3	朝読書や読書の時間に静かに本を読んでいる児童が増えた。児童や保護者のアンケート結果も10%ずつ伸びている。教員や学校図書館司書からの働きかけを今後も続けていく。	4	2	教員の読書の有効性についての意識が高まった(努力目標3から4)。単に40冊読む事を目標にしていた児童が減った(成果目標が3から2)。読書月間・読書旬間に、1週間通して朝の時間を読書にしたり、図書委員発表の集会を行ったりして、組織的に取り組む。